

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 あさひ)

事業所番号	O690700117		
法人名	十和建設株式会社		
事業所名	グループホームこもれび		
所在地	山形県鶴岡市八色木字西野335-5		
自己評価作成日	令和 3 年 9 月 15 日	開設年月日	平成 24 年 3 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の為、外出、面会は中止にしています。6月に全入居者様と全職員はワクチン2回目を終了していますが、引き続き健康観察と、感染対策を徹底しています。面会中止の為、ご家族様に安心していただけるように定期的に近況報告をしています。現在は施設内だけの活動ですが、毎月イベント(リクエスト献立、スイカ割り、運動会、プチドライブ等)を提供しています。誕生日は各ユニットで行っています。天気の良いときは、ウッドデッキでプランター作業や外気浴等を提供して、季節感を楽しんでいただいています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 3 年 10 月 18 日	評価結果決定日	令和 3 年 11 月 8 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が事業所理念に沿って個人目標を設定し、管理者が特に「笑顔を大切にすること」を重視して評価し指導することで、「あなたらしく暮らせる」ことを大切にされたケアに取り組んでいる。コロナ禍ではあるが多様な外出支援や広いテラスを活用した活動などで利用者の生活がメリハリあるものになるように支援している。例年通りの地域との付き合いはできないが、従来の地域との深い付き合いから、住民からコロナ対応での応援の声掛けがあるなど地域との協力関係ができています。毎月、火災や水災害に対応して昼夜想定避難訓練や研修を行い、利用者の安全対策に努力している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念や認知症介護における注意事項を職員の目のつきやすい所(玄関、会議室、更衣室、職員トイレ)に掲示している。コロナ禍で地域交流は難しいが、地域密着の意識づけはしている。	理念を見やすいところに掲示し常に意識できるようにしている。管理者は特に「笑顔を大切にする」ことを重視して指導し、また職員は理念に基づいた個人目標を掲げ評価しながら、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍の為完全禁止としている。	コロナ禍で例年のボランティア来訪は制限しているが、小学生による花植えや文化スポーツ事業団の方による軽体操指導などに取り組んでいる。また従来の地域との深い付き合いから、支援の声掛け等があり地域に密着した事業所となっている。感染症対策のため中止しているが藤島地区の事業所と協働してオレンジカフェの事業に取り組み地域貢献にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の文化スポーツ事業団の方から何度か来ていただき、一緒に体を動かしたりしている。地域の方々との交流はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染拡大防止の為、市役所、包括、構成委員の承諾を得て書面で報告している。	町内会長、民生委員、老人クラブ、婦人会、市職員、包括職員、介護相談員等の委員で構成され、2か月に1回文書または実際の会議として開催している。事業所からは運営状況や行事、研修内容、事故報告、避難訓練等を説明するとともに身体拘束防止委員会の報告がなされ意見をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とメールや電話で日常的に連絡、相談をしている。	市職員の運営推進会議への出席やコロナ感染対策に関するメール等での連絡など、協力関係を築くよう取り組んでいる。個別の課題についても随時相談しながら問題解決に向けて努力している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況			次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>契約時に方針を説明し、ご家族様、ご本人様の同意を得ている。重度化した場合も、ご家族様、医療機関と連携を図り支援している。また、3ヶ月毎に身体拘束廃止の研修をしている。</p>	<p>身体拘束防止の指針を整備し、身体拘束虐待防止委員会を3か月ごと開催して職員会議で報告しながら身体拘束防止の取り組みを検討している。研修ではスピーチロックについて、外部研修の内容報告、居室のベッド環境、鍵やセンサーなどの安全対策等について意見を出し合いながら相談し職員間で身体拘束しないケアの実践に取り組んでいる。離脱願望が強い利用者等には寄り添いながら職員間で情報共有して事故防止に努め、施錠しない工夫などにつなげている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員会議等で事例を出し合い、検討している。3ヶ月毎に内部研修を行っている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は介護支援専門員の研修会で学んだ事を全職員へ理解できるように研修などを活用していく。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は十分に説明し、疑問などがなければ確認している。又、改定などもその都度説明し同意を得ている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>クレーム対応に努め、ご意見箱を設置している。要望や意見などがあれば職員会議などで周知し、話し合い、サービスの向上を心掛けている。</p>	<p>例年は芋煮会や行事に家族が参加し相談や意見をいただいていたが、コロナ禍で困難な状況ではあるが、感染対策を講じながら面会をおこなっている。またLINEやメールで定期的に近況報告し、2か月ごとの「こもれび便り」で利用者の状況を報告して意見などをいただく機会としている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況			次のステップに向けて期待したい内容
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で話し合いの場を設けている。日常の業務内での時間を有効活用し、意見交換をしている。代表者とは定期的な会議や業務月報で報告や相談をしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得を奨励し、資格手当を設けている。給与水準の見直しは適時行っている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士が主となり、現場で介護テクニックを実践している。法人外の研修参加は難しい。	内部研修は年間計画を立てて毎月1回実施している他、職責や力量に応じて外部研修へ派遣している。また職員は年2回事業所理念に基づいて個人目標を設定して自己評価し、管理者は面談を通して指導しながら職員のスキルアップにつなげている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県グループホーム協議会主催や庄内保健所主催の感染予防などの研修には、オンラインで参加している。	例年県グループホーム連絡協議会や市介護事業所連絡会の研修に参加したり、藤島地区4事業所合同事業などを通して交流や情報交換してネットワークの構築に努めている。今年度はリモート研修が多かったが、今後対面の研修会開催が検討されている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っている事や、要望などを拝聴、共感し、職員同士で周知し一緒に解決策を考えるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望を取り入れ、定期的にラインやメールを活用し情報提供をし信頼関係の構築に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人とよく話し合いをし介護支援専門員と現場の職員がその時々にあった支援を模索しながらも提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に活動をしたり、食事作り、掃除等も出来る範囲で行っていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来荘時や定期的な電話、ライン、メールで近況報告をしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	今は馴染みの人に会ったり、行ったりは出来ないのので、写真などを見たり、電話をかけたりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を尊重し、入居者様同士良い関係でいられるようなテーブル配置に配慮している。レクリエーションや諸活動を通して良い関係性が保てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて、ご家族様や関係機関と連絡が取れるように連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況			次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意見を尊重し、又、ご家族様のご意見も取り入れて検討している。	理念である「あなたのお話をたくさん聞く」ことを大切にし、普段の関わりの中から一人ひとりの一日の過ごし方やできること、やりたいことを把握するように努めている。会話や仕草の中から気づいたところを職員間で話しあいながら情報共有し、利用者本位の意向の把握につながるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様にこれまでの生活の様子などを聞き取り、施設生活に役立てている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の性格、趣味、嗜好、能力など、日常生活や記録から読み取るようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の要望をケアプランに反映し、3ヶ月毎にモニタリング評価を担当職員が行い、ケース会議、サービス担当者会議を開催して職員間で検討している。	3か月ごとにモニタリングを行い計画の評価と達成状況の把握を行っている。ケース会議やサービス担当者会議で意見を出し合い、家族の意向も踏まえながら、変化がない場合は1年ごとに計画を見直している。計画作成に当たっては「あなたらしく暮らせる」ことを重視した計画づくりに取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気がついたことや、普段と違う事などは日々報告しあっている。ケース記録に記入し、ケース会議で検討し改善点などがあればプランの見直しをしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、地域交流は中止している。市の介護相談員の訪問もストップしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況			次のステップに向けて期待したい内容
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診、往診時には情報提供書を作成している。他科受診の際も情報提供し共有を出来るようにしている。。</p>	<p>従来のかかりつけ医を継続して家族による通院支援を原則としており、通院時は情報提供書やバイタルの状況を医師に情報提供し、医師からは指示を頂いている。また、協力医による往診もあり、安心して医療が受けられるよう支援している。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常生活でとらえた情報は、職員間で共有し、情報提供書やケース記録を活用し、受診、往診時に主治医、看護師に報告や相談をしている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際はサマリーにて医療機関や関係機関へ情報提供を行っている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に看取りをしない方針や、重度化した場合などを十分に説明をし、同意を得ている。重度化した場合はご家族様、主治医ともよく相談し、支援できるようにしている。</p>	<p>入居時に事業所でできること、できないことについて説明し、身体状況の変化に応じて早くから家族、主治医、職員で相談しながら方針の共有化を図っている。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に消防署、応急手当普及員(職員)より、心肺蘇生法やAEDの操作方法の講習を受けている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>昼夜想定避難訓練を実施している。災害の特性を周知理解した上での訓練を行っている。</p>	<p>隣接の事業所と共同で昼夜想定避難訓練や水害時の対応、防火設備に関する研修など毎月何らかの避難訓練及び研修を行っている。通常は町内会などの参加もあり地域との協力体制もできている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重に努めている。対応や声掛けについて不適切にならないよう十分注意し職員間で確認している。	「話をたくさん聞く」「あなたらしく暮らせるように努める」という理念に沿って一人ひとりの人格を尊重して接することに心掛けている。普段の会話での言葉かけなどについて職員間で話しあい、不適切な対応がないように注意しあっている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活に於いて、自己決定、自己選択ができるような環境設定をしたり、声掛けを行っている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを大切にし、どのように過ごしたいかを聞き取り、希望や想いに沿って支援出来るように心掛けている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に地域の美容室から施設に来ていただいている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分の好きなメニューを選択していただき、楽しんでいただいている。また、誕生日には希望献立や希望のおやつを提供している。	三食とも事業所で調理し、できることは利用者にも手伝ってもらいながら家庭的な食事になるよう留意している。畑から収穫した野菜を使ったり、寿司の出前、季節の行事食や干し柿作り、好きな料理を選ぶ選択メニューの提供など、食事を楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況			次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状況を把握し、個々にあった食事量、形態で食事を提供している。水分接種量も個々に声掛けしたり、手作りゼリーを提供したりと工夫しながら対応している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨き、義歯洗浄を促している。不十分な部分は介助し、口腔内の清潔保持に努めている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。失敗防止の為に、離床時や外出前後にも声掛けや誘導を行っている。	排泄チェック表を用いて個々の排泄パターンを把握し、声掛けする時間など検討しながらできるだけトイレでできるよう支援している。排泄に関して介護計画に位置付け、排泄の自立支援に努めている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の活用や医師からもアドバイスを受け、乳製品の提供や日々の運動なども促している。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の希望などを聞きとり、希望に応じ入浴を楽しめるように努めている。	利用者の希望にそって時間や回数を考慮し、ゆず湯、リンゴ湯など入浴を楽しめる工夫をしている。拒否的な利用者には着がえに誘うなどの声かけに工夫し、個々に合わせた入浴支援を行っている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を把握し、日中は適度な運動や趣味活動を行っていただき、夜間はゆっくり休んでいただけるように努めている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋内容を職員間で確認し、服用の際はダブルチェックし誤薬がないようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況		次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を把握し、やりたい事や出来ることを提供し見守りにて実施している。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今は、極力外部との交流を避けている。施設内の畑仕事などは職員と一緒にしている。	コロナ禍ではあるが、感染対策を講じながら湯浜へのドライブや藤島藤の花まつりの見学、花見、個別ドライブなど多様な外出支援を行っている。また近隣での花見や散歩、広いテラスを利用して体操やプランター作業など戸外で外気浴を楽しめるよう支援している。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい方はご家族様にお願いしている。100円ショップなどは職員と一緒に出かけ、自身で支払いをしてもらっている。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎなどは定期的に行っている。年賀状などは直筆で行っている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一日数回掃除を行い清潔保持に努めている。リビングなどは、入居者様と職員の共同の創作品を飾り季節感を楽しめるように工夫している。	共有空間は毎日複数回掃除が行われ、温度湿度が適切に保たれ、明るく清潔に管理されている。思い出の写真、創作品、季節の花などが飾られ、季節を感じながら居心地よく過ごせるよう工夫されている。ウッドデッキ、ソファ、椅子などを利用し、利用者が思い思いの場所でゆっくりと過ごせるよう配慮されている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファを置き、テレビを観たり外の景色を眺めたり、入居者同士会話を楽しんだりできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況			次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自身の馴染みの家具を持ち込んだり、思い出の写真を掲示したりしている。	馴染みの家具・家族の写真・テレビ・遺影などを持ち込み、好みの飾り付けを行うことで自宅と変わらぬ環境で居心地よく過ごせるよう工夫している。担当職員による季節を感じられる居室づくりも行われている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、食堂の椅子に記名をして混乱なく安心していただけるようにしている。移動の際は障害物がないように環境整備をしている。			